

I. 序章

●計画策定の背景と目的

今後30年間に視野に入れた街路樹更新計画を策定し、緑豊かな景観を維持しながら、適切な管理を行うことで、質の高い緑を充実させ、次世代につなぐ「芦屋庭園都市」の実現を目指すものである。

II. 現状と課題

●街路樹の現状

(1) これまでの街路樹管理

①「芦屋市街路樹等維持管理基本書<剪定方法>」による管理
・無剪定のままの自然樹形を目指した管理から、積極的に適切な目標樹形を設定し、樹木本来の樹冠を縮小した姿となる矯正型自然樹形を目指した管理への移行を目的とする。

②市民参加の状況

・「街の美化推進事業補助」制度を利用して、落葉清掃等の道路の清掃活動に関わっている自治会等の団体は64団体ある（令和元年度実績）。また、低木への水やりを自主的に行っている地域もある。

③街路樹に関する苦情要望

・街路樹に関する苦情要望は毎年数百件あり、うち剪定に関するものが最も多い。

④市政モニターアンケート調査結果

・市政モニター100名を対象に令和2年4月に実施した街路樹に対する意向調査では、約9割の方が「市内の街路樹が好き」と回答している。

(2) 現在の街路樹の問題点

・大木化や老木化にともなう倒木や信号や街灯への支障、強剪定による樹形の乱れ等、道路交通の安全確保や良好な景観形成に対する問題点が見られる。

- ①倒木や落枝
- ②建築限界の侵害、衝突等
- ③見通し不良
- ④根上がりによる歩道の不陸、縁石破損
- ⑤樹勢の衰え・生育不良、樹形の乱れ
- ⑥道路空間や周辺環境との不整合等
- ⑦沿道住民等の生活環境への支障
- ⑧生物多様性に悪影響を及ぼす外来種

■倒木



■舗装の不陸



●今後想定される課題

(1) 大木化・老木化の進行

・街路樹の維持管理費用で最も大きな割合を占めているのは剪定であり、毎年多額の費用がかかっている。

(2) 少子高齢化の進行

・今後は、人口の減少により経済が停滞し税収が減少することや、高齢社会の到来による社会保障費の増大等により、街路樹管理にあてられる費用が減少することは避けられない。

(3) 財政状況の変化

・本市の財政状況は、今後も社会保障関係経費や公共施設の老朽化への対応等に必要経費は増加し、財政が硬直化している。今後も厳しい財政状況が継続することが予測される。

・これまでと同様の維持管理を継続していくことは困難となることが予測される。

III. 街路樹更新計画

●更新計画の考え方

目標

・緑豊かな景観を維持しながら、適切な管理を行うことで、持続可能で質の高い緑を充実させ、次世代につなぐ「芦屋庭園都市」の実現を目指す。

方向性

- ・「芦屋庭園都市」実現を目指した、健全で整った街路樹づくり
- ・安全で交通機能が確保された快適な街路空間づくり
- ・社会環境の変化への対応と地域、企業連携の推進

●街路樹更新方針

- ①芦屋らしい街路樹景観の形成（芦屋らしさの創出）
 - ・重点管理路線の設定 ・芦屋らしい景観に配慮した撤去、植替 ・地域住民、企業との連携
- ②健全で整った街路樹の育成
 - ・健全な街路樹育成を目指した配置整理 ・整った並木を創出する適正な維持管理
- ③街路樹の適正化による安全、快適な街路空間の確保
 - ・危険木や支障木の撤去、植替 ・道路空間や周辺環境に対する不適合木の撤去、植替

●タイプ別更新方針

【重点管理路線】

- ・景観計画、都市計画マスタープランにおいて景観を重視すべきとされている路線、ブランディングエリアに指定されている路線、および道路幅員が広く良好な植栽基盤を構築できる路線。
- ・市政モニターアンケート結果でも、良好な街路樹として挙げられている路線。
- ・路線や樹種に応じて、重点的にきめ細やかな管理を行い、良好な景観を維持する。

【適正化】 例：宮川線（ケヤキ）

▽巨木化により交通等に支障が出た場合は植替を行い育成に適するよう樹木間隔を見直す。

【植替】 例：川西線（サクラ）

▽巨木化により交通等に支障が出た場合には植替を行う。
▽特定外来種や道路整備計画に伴う道路構造の変更により樹木の植替を行う。

【育成管理路線】

- ・街路樹としての機能を維持している路線である。樹種に応じて道路の通行に支障のないように管理を行う。
- ・大木化した際植替を行い、路線として一定の大きさを保ち路線としてのバランスを取る。

【適正化】 例：山手線（トウカエド）

▽植替の際、育成に適するよう樹木間隔を見直す。

【植替】 例：岩園並木道（ナンキンハゼ）

▽特定外来種や道路整備計画に伴う道路構造の変更により樹木の植替を行う。

【管理見直し路線】

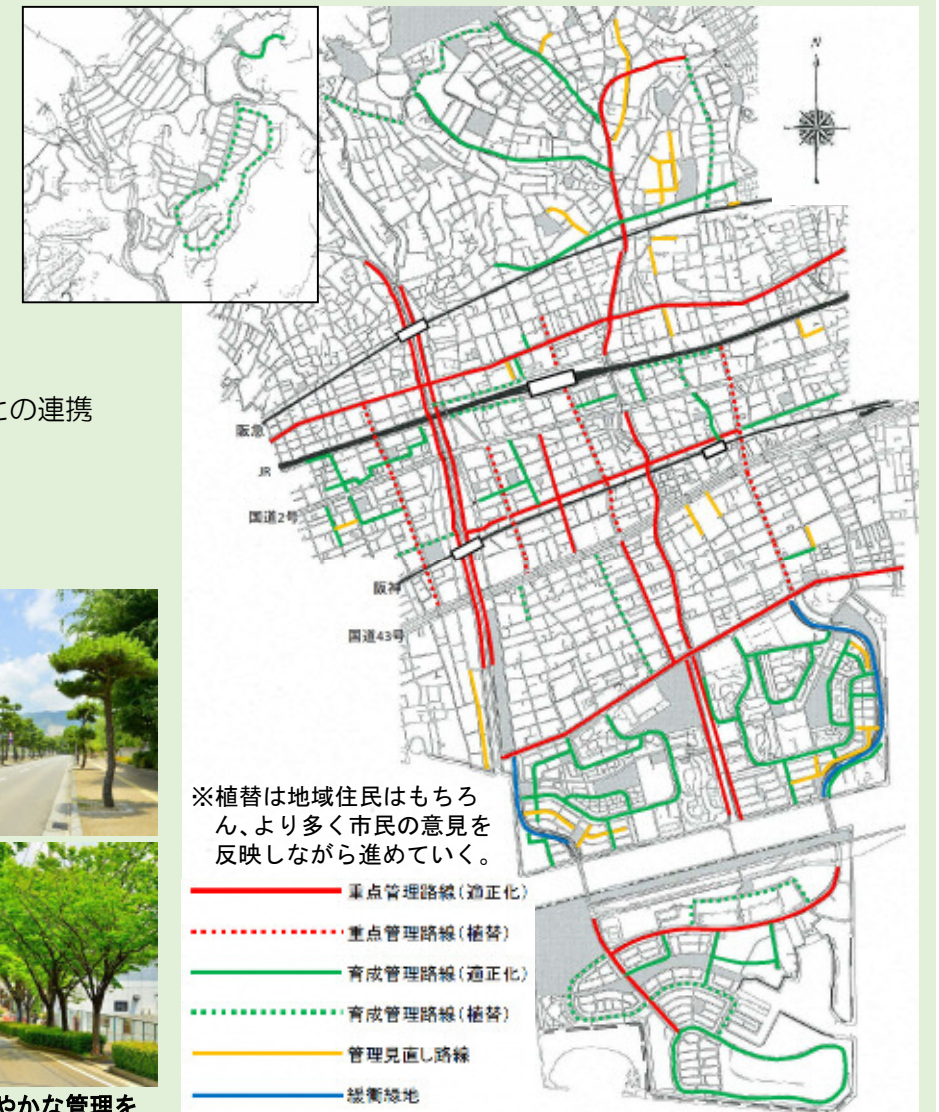
- ・通行に支障となっていたり、街路樹としての効果が発揮されていない路線については、地域住民と協議し、樹木のあり方の見直しを行う。

【緩衝緑地】

- ・芦屋浜線、打出浜線の緑地帯は、緩衝緑地としての機能を担保しつつ、大木化した樹木を中心に本数を調整し、緑地として適正な密度に誘導する。



■通行の支障になっている街路樹等は樹木のあり方の見直し



※植替は地域住民はもちろん、より多く市民の意見を反映しながら進めていく。

- 重点管理路線(適正化)
- 重点管理路線(植替)
- 育成管理路線(適正化)
- 育成管理路線(植替)
- 管理見直し路線
- 緩衝緑地



■重点的にきめ細やかな管理を行い良好な景観を維持

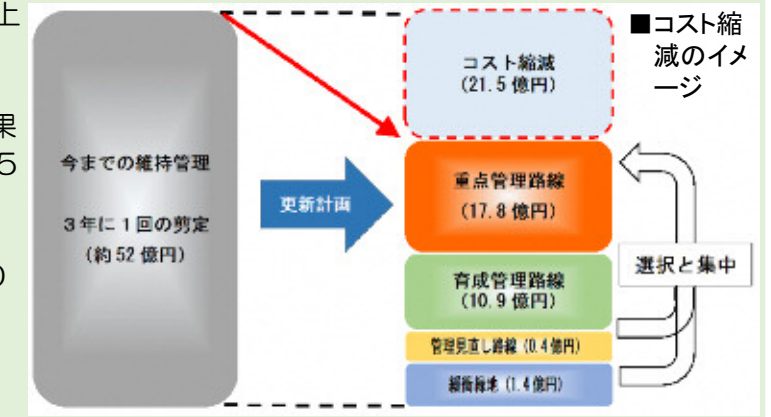
V. 計画を支える手法

●街路樹更新マニュアル等の策定等

- ①街路樹更新マニュアルの策定
- ②街路樹更新実施計画書の策定
- ③街路樹維持管理における新たな仕組みの検討
- ④PDCA サイクルに基づいた計画の推進
- ⑤街路樹剪定の技術力向上
- ⑥発生材料の活用

●維持管理費用の試算

- ・維持管理費を試算した結果は、今後30年間で約21.5億円縮減できる見込みとなる。
- ・樹木の本数は、約9,600本 ⇒ 約7,000本となる。(約73%)



VI. スケジュール

概ね5年毎に必要なに応じて中間見直しを行い、10年毎に実施した対策や街路樹管理の結果を検証し、新たな街路樹更新計画に反映していく。